

水の塔山スノーハイク山行報告

(山城) 浅間山周辺

(コース) 高峰温泉から水の塔山ピストン

(日時・天候) 2月21日(日) 晴れ、時々曇り

(参加者) CL 室 ・大木 ・安岡 ・記録: 富樫(富)

(山行タイム) 上り 高峰温泉 9:15～水の塔山 10:20

下り 水の塔山 10:30～高峰温泉 11:00

(山行報告)

2月20日(土曜日) 高峰山 中止

今日は高峰山ピストンの予定だったが、天気予報が芳しくなく、小諸にあるマンズワインのワイナリー一見学に切り替えた為、船橋駅にはゆっくり9時に集合。上信越道を通り小諸ICを降りてワイナリーに着いた。運転をお願いした安岡さんには申し訳ないが、残る3人は並んでいるほとんどのワインを一口ずつ試飲するが、室さんの利きワインの腕前は相当なものようで、ベテランとおもわれる年配の職員も「この人はワインがわかる人だ」と感心しきり。室さんお勧めのワインは貴腐の白ワイン。このワイン、1万円は超える高級ワインらしいがここでは格安の値段で買え、思わず私も買ってしまった。

ワインを試飲しほろ酔い気分今夜の宿の高峰温泉に向かう。天気予報の通り小諸についての頃は雨が降り始めていたが、車坂峠を越えアサマ2000のスキー場の駐車場に着く頃にはすっかり雪に変わり、そこにはキャタピラの雪上車が待っていた。ここからは雪が深いので雪上車で宿まで移動になる。日本秘湯の会の宿らしいアプローチだ。雪上車に乗り込み10分もかからずにランプの宿、高峰温泉に着いた。

高峰温泉に着くとまずは宿自慢の雲上の野天風呂に向かうが今日は既に終わっていて残念。内風呂にゆっくり浸かる。微白濁の泉質の良い温泉だ。湯口が2つあり、加温をした湯口と未加温の湯口だ。温度の低い未加温の源泉に入っても不思議とよく温まる。ゆっくりと温泉を堪能した後は地の食材を活かした料理に舌鼓を打ち、部屋に戻ってからは女性4人の楽しいおしゃべりは途切れることなく深夜まで続いた。窓の外は強風が吹いて荒れ模様。雪が雨に変わり、雨で雪が溶け出してところどころ地面が顔を出している。明日の登山が心配になる。夜11時半就寝。



2月21日（日曜日） 水の塔山 ピストン

朝から温泉に浸かり、美味しい朝食を済ませ荷物を宿にデポし、9時15分に高峰温泉を出発する。宿ではスノーシューもストックもアイゼンも借りられ、手ぶらで来てもスノーハイクが楽しめる。今日は持参の軽アイゼンを装着して宿のすぐ先のアサマ 2000 スキー場のゲレンデの脇を通り登り始める。

昨夜は大雨が降り雪の状態が心配されたが、結果的には雨で雪が締まり軽アイゼンが良く効き歩き易い。トレースはあちこちについていて夏道からは外れても登れる。しかし尾根は間違えぬようと安岡さんからアドバイスが有り、赤テープを探しながら登る。30分ほど登り、眺望の良い尾根で休憩。水の塔山は小諸方面に視界が開けているのだが、残念なことに今日は雲がかかり下界は見渡せない。水の塔山から東麓ノ塔山への稜線はくっきりと見えている。休憩を終えて更に登り始めると岩稜帯となり、アイゼンでは歩きにくいと判断し、スノーシューコースを選択し、右側から回り込むように樹林帯を進み程なく山頂に到着。樹の枝に着いた霧氷が美しい。外輪山の黒斑山の向こうに浅間山がわずかに見える。

山頂は強風で休憩は出来ず、写真撮影を済ませてすぐに下山を開始する。同じコースを下山するのはつまらなく、夏道の尾根を下るが急勾配でちょっと怖い。慎重に下るとすぐに緩やかな勾配になり、後は快調に歩みを進め、あっという間に高峰温泉に着いた。下山はちょうど30分で下りてくれた。

下山後は昨日入れなかった絶景の雲上の野天風呂に浸かり、大満足で温泉と山を愛する会（セレブ山行ではなく）の山行を終えることが出来ました。

